

旧北海雜穀(株)

北海雜穀株式会社は、1907 年に堺町通りにて開業し、1931 年に廃業するまで、雜穀やその他の小穀物の委託販売や取引を行っていました。建物は 2022 年に元の状態に修復されて硝子ギャラリーとして再利用され、現在はガラス工芸品のワークショップを開催しています。

この 2 階建ての建物は小樽の活気ある堺町商店街の角に建っており、和式と洋式を融合した建築様式となっています。その形状は江戸時代（1603 年–1867 年）の典型的な木造の商家に似ていますが、火山岩でおおわれています。外装の石細工は、彫刻された幾何学模様を特徴としており、おそらく 20 世紀の終わりにヨーロッパで人気のあったルネッサンス・リバイバル建築の影響を受けていると思われます。

建物の正面に上げられている「うだつ」（防火壁）があるため、この通りにあるこれより古い建物よりも目立っています。上部を瓦で覆われているこの石の壁は、建物が密集して建てられている町で火災が起きた時に隣まで燃え広がらないよう造られたものです。この防火壁は、このあたりの数多くの商業建物を壊滅させた 1902 年の火災の後、堺町通りの土地建物の所有者に取り入れられました。